

かながわ 助産師職能だより

第48号
2026年1月5日発行

公益社団法人神奈川県看護協会 助産師職能委員会 発行責任者 布施 明美
〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 TEL: 045 (263) 2901 FAX: 045 (263) 2905
E-mail kanakan1@basil.ocn.ne.jp URL <https://www.kana-kango.or.jp>

ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。日頃より会員の皆様には神奈川県看護協会にご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて2026年の新しい年がスタートいたしました。

社会の動きは、大きく変化し、わが国の少子高齢化に歯止めがかかりません。2040年には高齢人口がピーク迎え、人口は一気に減少していきます。少子化は予想よりも12年早まっています。2024年の出生数は過去最低の686,061人、合計特殊出生率1.15、婚姻数は485,063で前年より約1万組増加、婚姻率は4.0でしたが、出生数の減少は加速が予測できます。晩婚化・未婚化が少子化に拍車をかけ少子化を食い止めるのは難しい現状があります。出生数が減少する中でも、分娩施設の確保は少子化対策の要であります。

神奈川県の状況を見ますと分娩取扱施設数が131施設となっています。

内訳は病院が1施設増加、診療所が4施設減少、助産所が4施設増加となっています。

分娩取扱件数は合計50,201件で、1,712件の減少となっています。

女性が安心して出産できる施設を維持していくことが重要と考えます。

出産ナビでは、神奈川県全体の出産を取り扱う施設の環境は、産科混合病棟が増えています。そのような環境をどのように工夫し、安全・安心でより良いケアができる環境にすることが出来るか、医療職が力を合わせ取り組んでいきたいと存じます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



助産師職能委員長
布施 明美



湘南つむぎ助産院



神奈川県茅ヶ崎市

2020年に開院した湘南つむぎ助産院は、妊娠中から産後まで、出張型で母子に寄り添う助産院です。ご自宅で安心して出産を迎えたい方には、自宅出産のサポートも行っており、医療機関と連携しながら、安全・安心な出産環境を整えています。

また、産後の訪問ケアや授乳相談、育児サポートを通して、赤ちゃんとお母さんの健やかな日々をサポートしています。地域に根ざし、母子が安心して暮らせるよう寄り添う時間を大切にしています。

出張ケア内容

- 個別マタニティクラス
- 産前産後継続ケア
- 授乳相談
- 産後ケア
- 育児相談



オンライン相談

マタニティクラスや授乳などの各ご相談について、遠方の方にはオンラインでもサポートしています



自宅出産サポート

妊娠中から丁寧に心と体の準備を重ね、分娩当日は助産師が安全を見守りながらお産を介助します。産後ご自宅でのケアや母乳育児のサポートを継続し、家族みんなが新しい命を迎える時間を穏やかに過ごせるようお手伝いしています。



各種講座の開催

- 赤ちゃんの発達講座
- 抱っこ＆おんぶクラス
- 離乳食講座
- お料理教室 など



ママ達の交流会開催

子育て中のママたちがほっと一息つける「交流会」を定期的に開催しています



自宅出産や産後訪問の場面では、妊産婦や新生児の状態に応じて、医療機関の迅速かつ確かな支援が欠かせません。助産院と医療機関がそれぞれの専門性を生かし、互いに連携し合うことで、母子にとって最良のケアが届けられると信じています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



院長 安藤千晶

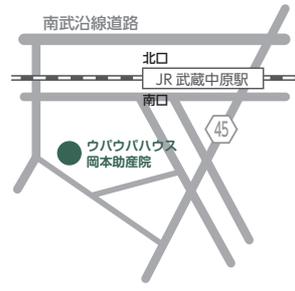
地域に寄り添う多機能拠点

ウパウパハウス岡本助産院



川崎市中原区下小田中1丁目5-31

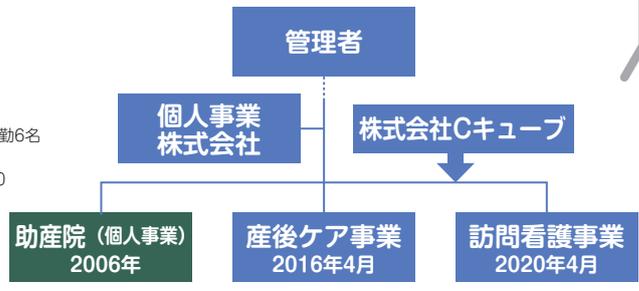
地域に寄り添う多機能拠点として活動する「ウパウパハウス岡本助産院」は、産後ケア・訪問看護・保育園を併設し、家族のライフステージを支えています。



多機能多角経営

- 助産院&産後ケアスタッフ
6~7名(全員助産師)常勤1名・非常勤6名
- 診療時間
平日9:00~16:00 土:9:00~12:00
2交替制・夜勤専属スタッフ7名

	分娩	外来	入院
2022年	41件	482件	139件
2023年	21件	281件	162件



- 訪問看護スタッフ
6~7名
(助産師・看護師・理学療法士)
- 訪問時間
平日9:00~17:00(月~金)
月平均/30件

経営・運営機能・会計管理が別

助産院 - 2006年開設 -

川崎市中原区で妊娠・出産・育児を安心して迎えられるよう、母と子に寄り添うケアを重視。自然な出産を支える場であると同時に、妊婦健診や育児相談を通じ「いつでも頼れる場所」として地域に開かれています。安全を守るためには地域や医療機関との連携が不可欠であり、助産師一人ひとりのスキルアップとチームワークを重ね、母子の命を守り育む拠点であり続けたいと努めています。



産後ケア事業 - 2015年開始 -

出産後のお母さまが心身を休め、安心して育児を始められるよう宿泊型・通所型のケアを提供。授乳や育児相談に寄り添い、母と子が笑顔で過ごせる時間を支えています。



訪問看護 - 2020年開始 -

コロナ禍で支援者を得られず不安を抱える妊産婦に寄り添うため開始。現在は助産師・看護師・理学療法士が家庭を訪問し、医療的ケアや生活支援を行っています。赤ちゃんや妊産婦、産後回復を必要とする方、周産期のメンタルに寄り添う方々へ安心を届ける存在を目指しています。



保育園 - 1995年開設 -



待機児童問題に「何とか手を差し伸べたい」と始めた事業。子どもたちがのびのび遊び、時代に合わせた教育カリキュラムを取り入れ、安心できる環境を整えてきました。保護者が安心して働けるよう支え、地域の子育てを共に育んでいます。子どもたちの笑顔は地域の未来を照らす光であり、これからも守り続けます。



母と子、そして家族の笑顔を大切にしながら、地域に寄り添う拠点として一歩ずつ歩みを重ねてまいります。

横浜市立大学附属市民総合医療センター

横浜市南区浦舟町 4-57

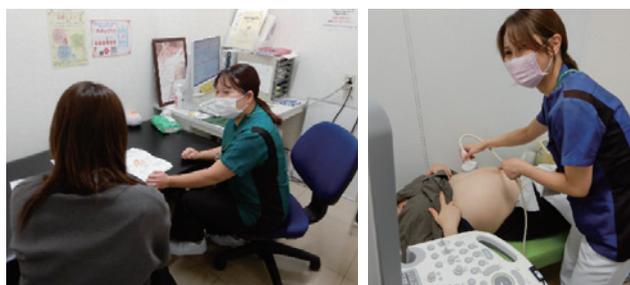
当センターでは、妊娠・出産・産後にわたる切れ目のない支援を行うため、助産師が中心となり他職種と連携しながら、日々きめ細やかなケアに取り組んでいます。

大きな特徴は、病棟助産師による外来との密接な連携です。病棟と外来が常につながる体制をつくることで、妊産婦の状態変化を早期に共有し、より安全で安心できる周産期医療の提供につなげていきます。



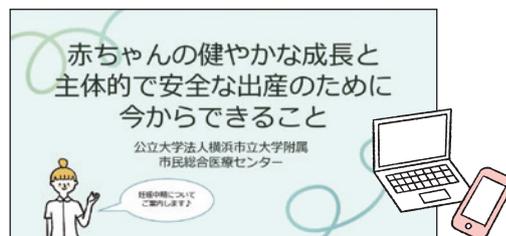
助産師外来

妊娠中の健康管理や出産への不安の軽減、個別ニーズに合わせて生活指導を行い、継続的な関わりを大切にしています。



オンラインでの助産師指導

対面での指導に加え、アプリを活用して妊娠中・産後に関する動画を、いつでも繰り返し視聴できる環境を整えています。また、働いている方も参加しやすいように Zoom を用いた両親学級も実施しています。



2週間健診

母体の回復や育児状況、メンタル面の確認を行ない、必要時は医師やリエゾンチームと連携しながら早期支援へつなげています。



母乳外来

授乳方法はもちろん育児全般に関するケアを提供し、母児の個別性に合わせた母乳育児の継続をサポートしています。



これらの保健指導などの情報は院内助産師で共有し、助産ケアに反映しています。

私たちの取り組み

産科医師・新生児科医師・助産師・関連部署看護師・ソーシャルワーカーなどが参加する他職種カンファレンスを週1回開催し、医療的・社会的背景を含めた総合的支援を検討しています。今後も周産期医療の質向上のため、助産師としての専門性を発揮しながら、他職種と協働した切れ目のない支援の実現を目指しています。



平塚市民病院

平塚市南原 1-19-1

当院は、湘南西部 2 次医療圏にあります。産科病棟は、病床 20 床、陣痛室 4 床、分娩室 2 床を有しています。産科・小児科の 2 次救急病院として妊娠 30 週以降の多胎や胎児発育遅延、前置胎盤、母体合併症などのハイリスク妊産婦も積極的に受け入れを行っています。

平塚市は、「子供を産み育てやすい環境づくり、妊娠期からの切れ目ない子育て支援」を目標とし、病院やクリニック、市役所、保健福祉事務所など多職種で妊娠から育児支援と継続したかかわりを行っています。地域との連携を大切に私たち助産師は取り組んでいます。



妊娠・出産のケア

当院は、自然分娩を基本としています。立ち合い分娩を行っており、早産でもできるかぎりご希望に添えるように関わっています。帝王切開術では立ち合いを行うことはできませんが出生直後に母児の写真撮影や家族との面会ができるようにしています。小児科と連携し母児の状況によって小児科医師の分娩立ち合いも行っています。

近年、和痛分娩を希望される妊婦さんが増え、ご希望に添えるように助産師、産科医師、麻酔科医師、小児科医師と連携して準備を進めています。



プレコンセプションケア

リプロダクションヘルス実習にきている看護学生、助産学実習の助産師学生にプレコンセプションケアを始めました。きっかけは、入職した職員が自身のライフプランやキャリアプランのイメージができない、就職したらどんな生活が待っているのだろうという不安を持っていることに対して何かできることはないかという声でした。少しでも自分のこれからの生活をイメージできることで自分がどんな看護をしたいのか、どんな働き方が自身に合っているのか考えられるように行っています。学生からは、具体的に自分の夜勤イメージができることで心と身体の準備に役立ったとの感想を頂いています。

今年からは入職者オリエンテーションでもプレコンセプションケアを始めました。院内の職員に向けた段階的なケアも検討しています。

地域の健康と安全を守る

当院の役割の中に「地域医療支援」があります。地域の関係各所と連携し、母子や家族が安心して生活できるよう継続的なサポートを取り組んでまいります。また、助産師として女性のライフスタイルを踏まえたサポートも取り組んでいきます。



*** 2024・2025年度 *** 助産師職能委員会 活動及び研修会 報告

2024年 7月19日(金) 職能委員会

8月23日(金) 職能委員会

職能委員会・職能集会
9月9日(月) 研修会「周産期メンタルヘルス」
◆ 済生会横浜市東部病院 こころのケアセンター心理室 課長 相川 祐里

職能委員会
10月11日(金) 研修会「プレコンセプションケア1・2」
◆ 上智大学 教授 島田 真理恵

職能委員会
11月29日(金) 研修会「CTG判読 / 母体感染」
◆ 神奈川県立こども医療センター 副院長・産婦人科 部長 石川 浩史

職能委員会
12月17日(火) 研修会「プレコンセプションケア3・4」
◆ 上智大学 教授 島田 真理恵

2025年 1月17日(金) 職能委員会

職能委員会
2月21日(金) 研修会「プレコンセプションケア5・6」
◆ 上智大学 教授 島田 真理恵

3月14日(金) 職能委員会

4月18日(金) 職能委員会

5月23日(金) 職能委員会

6月20日(金) 神奈川県看護協会総会・職能委員会

8月22日(金) 職能委員会

職能委員会・職能集会
9月19日(金) 研修会「周産期メンタルヘルス」
◆ 訪問看護ステーションレインボーコンパス 管理者 安宅 満美子

職能委員会
10月17日(金) 交流会「周産期管理者会議」

職能委員会
11月13日(木) 研修会「臨床病態生理」
◆ 医療法人産育会 堀病院 理事長 金井 雄二

Voice1

CTG 判読 / 母体感染

平塚市民病院 ◆ 原 帆乃翔

今回の研修に参加して特に印象に残った学びは2つあります。

まず1つ目はCTG判読において、ただ見たままにモニターの判読を行うのではなく、その所見の裏では何が起きているのか基本に戻り考えることが重要だと言う事です。また、研修で症例検討や、自施設でも毎週CTGの勉強会を行っていますが、答えを出す事自体が目的ではなく、意見を出し合い対応を検討していく過程が大切であると改めて学びました。

2つ目は母体感染において、原因が明確でなくても何かおかしい点があれば、VS測定やモニター装着、必要な検査などなるべく早期の段階で母子の安全を



守る行動を取ることが重要であると言う事です。近年増加傾向にあり、いつ自分が関わってもおかしくない症例であるため、今回の学びを臨床の場で活用したいです。

Voice2

プレコンセプションケア

平塚市民病院 ◆ 岸 恵

私は、この研修の直前に20歳の未受診妊婦の分娩に関わりました。どこに相談すれば良いのか分からずに分娩を迎えてしまったケースでした。母児の命を危険から守るためにプレコンセプションは非常に重要だと再確認し参加しました。

研修は3回でしたが、講義とグループで企画運営計画書作成とプレゼンテーションを行いました。グループの企画は、そのグループが何を大切にしているかにより対象の年齢や内容も様々で助産師は全てのライフサイクルに寄り添う職業だと改めて感じました。具体的な内容で質疑応答も活発で、すぐに活用できる内容でした。

自分の健康や生活にひとりひとりが向き合うことは重要なことで、私も健康的な生活を送るための支援をしたいと思います。



Voice3

周産期メンタルヘルス

藤沢市民病院 ◆ 高橋 亜友



日々の業務の中で、精神疾患を抱える妊産婦さんや、産後に心身の不調を訴えられる褥婦さんに関わる機会が増えていると感じており、そのような方々に

どのように関わり、支援していくべきか悩む場面も多くあったため、今回の研修に参加しました。

恥ずかしながら、訪問看護ステーションの方々や妊産婦さんに関わることができるということ、この講演で初めて知りました。その活動内容や実際に多くの妊産婦さんが利用されている現状に驚きました。

支援が必要な妊産婦さんは、自分が思っている以上にはるかに多く、その方々に対して自分にできる支援は何かを改めて考えさせられました。今回の講演で得た学びを今後の業務に活かし、新たな気持ちで妊産婦さんと向き合っていきたいと思います。



神奈川県の子の現状と分析からみられるハイリスク妊産婦の増加、母親のメンタルヘルスに関する問題、少子化に伴う分娩数の減少など、周産期の現場で日々直面する問題点と合致する点が多く、まさに「体験したことのない異次元の社会」に突入しているのだなと実感しました。同時にこうした時代変化にともなって、今後の助産師の専門性を生かした役割の重要性と新たな可能性をあらためて感じました。

また、グループワークではそれぞれの現場で抱えているリアルな課題や現状を共有できたり、新たな情報を得る機会にもなり大変参考になりました。



*** 2026 年度 *** 助産師職能研修予定



助産師交流会

開催日 ◆ 2026 年 9 月

分娩期の胎児心拍数陣痛図：CTG
(CLOCMiP 必須研修)

開催日 ◆ 2026 年 10 月

緊急時の対応
(CLOCMiP 必須研修)

開催日 ◆ 2026 年 11 月

頭蓋健診のトリニティ
(CLOCMiP 選択研修)

開催日 ◆ 2026 年 12 月

※開催日等の詳細は後日ご案内する研修募集案内をご覧ください。

2024 年度 助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	布施 明美	会 計	土井 秀子	広 報	菅原 真澄
副委員長	小保方 加奈子		三浦 菜見子		吉田 淳
書 記	千葉 菜緒		諏訪 和美		和田 紗耶加
	関口 美鈴				

2025 年度 助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	布施 明美	会 計	土井 秀子	広 報	和田 紗耶加
副委員長	小保方 加奈子		比嘉 美保		岸 恵
書 記	千葉 菜緒		安藤 千晶		住 和枝
	関口 美鈴				

